■築山殿 徳川家康の正室。呼称は、長く岡崎城郊外の築山に幽閉されていたため。殺害された理由には謎が多い。

つきやまどの

今川義元登場1542= 徳川家康が誕生した同じ年に、今川家臣団の重鎮で用宗城主(瀬名氏出身で関口氏に入り婿した)関口義広の娘に生まれる。母は今川義元の妹で、義元の姪にあたる。本名は出身地にちなんで瀬名。

鉄砲伝来・・・1543= 1歳：

今川氏が代々公卿の娘を正室に迎えていて、駿府の居城には京から公卿が来訪滞在することが多く、雅びな京文化に接しながら育ち、

勘合船終・・・1549= 7歳：この年、のちの家康が駿府の今川義元のもとへ人質として来る。
義元はこの年父を亡くた家康の親代わりに後見し、自由奔放にさせていて、やんちゃに育って行く。

織田信長登場1551= 9歳：

残されている肖像画から気品のある知的な美人で、家康へ送った書状などから、詩歌文芸を嗜む教養ある女性であった。

・・・・・・1556=14歳：今川義元の養女となり、元服して松平元信と称することになったのちの徳川家康と結婚。

大友府内開港1559=17歳：長男信康を、

桶狭間の戦い・1560=**18歳**：*長女亀姫(のち奥平信昌室)を産むが、桶狭間の戦いで今川義元が討たれ、解放された元信改め元康(家康)は岡崎城に帰還、駿府に置き去りにされてしまう。

大村長崎開港1562=20歳：元康改め*家康が伯父水野信元の仲介で織田信長と和議を結び、今川義元の妹の夫の上ノ郷城主主鶴殿長照の2人の遺児を人質にした後、岳父義広の助力も得て人質交換に奔走、石川数正の手腕で実現、駿府から信康・亀姫とともに家康の根拠地である岡崎に移るが、家康の生母於大の方とその家族もいたため、城の北の築山のある館に遠ざけられた上、父義広は今川氏真の怒りを買って、殺害されてしまう。

大村純忠受洗1563=21歳：清州同盟をさらに強固にすべく、長男信康と織田信長の長女徳姫の婚約がかわされ、

岐阜市築山1567=25歳：婚儀に至る。

織田信長入京1568=26歳：武田信玄が駿河に侵攻すると同時に、家康は遠江を攻略して、浜松城を手中にし、

京都宣教師可1569=**27歳**：*家康は岡崎城を嫡子信康に譲って、遠江浜松城に移るが、岡崎に残って、信康を後見することになる。

石山合戦始・1570=28歳：信康が初陣。

三方原の戦い・1572=30歳：西上する信玄の大軍を三方ヶ原で迎撃した家康は、大敗して、命からがら浜松城に逃げ帰るが、

室町幕府滅亡1573=31歳：信玄が陣中で死去すると、気の緩みが出たのか、密かに若いお万の方を寵愛し、身籠らせ、産まれた子に会おうとしなかったところ、不憫に思った信康が仲介して、家康と正式に親子関係を結ばせている。

長篠の戦い・・・1575=33歳：信康は長篠の戦いにも参陣し、自ら殿を買って武者ぶりを示し、敵将武田勝頼からその才能を評価され、信長も見抜いていたと思われるが、酒井忠次はじめ家康の家臣らは信康には従わず、

安土城築城・1576=34歳：徳姫が登久姫を、

安土市築山1577=35歳：熊姫を産むが、いつまでたっても信康の息子を産まないため、心配して、元武田家の家臣で後に徳川家の家臣となる浅原昌時の娘、日向時昌の娘らを、信康の側室に迎えさせたりするが、その間、嫁姑の対立に宿老同士の対立が複雑に絡み合って抜き差しならなくなり、

上杉謙信没・1578=**36歳**：

安土教会許可1579=37歳：*信長に馬を献上するため安土城を訪れた酒井忠次が徳姫から預かってきた書状を渡すが、そこには築山殿が徳姫に関する讒言を信康にしたこと、築山殿と唐人医師減敬との密通があったこと、武田家との内通があったことなど、12ヶ条からなる謀反の行状が書き連ねてあった。これにより信長が家康に信康の処刑を命じたとされるが、おそらく有能な信康を抹殺すべく、酒井忠次と石川数正の対立を利用して信長が仕組んだ謀略で、信長の命により、家康は妻と我が子無実を知りながらも、於大の方側の武士を随行させて呼び出した途中、築山殿は小藪村で野中重政らに殺害され、信康は母の後を追って二俣城で自害した。家康は亡骸を懇ろに葬り、生涯悔み続けたという。